

THE OSAKA CITY UNIVERSITY INTERNATIONAL SYMPOSIUM 1996
PRESERVATION OF THE CULTURAL HERITAGE IN ATHENS AND OSAKA

都市と文化財

大阪市立大学国際学術シンポジウム

アテネと大阪

関 隆志 (編)

東信堂

19 アクロポリス文化財による教育

ギリシア文化省
アクロポリス教育課

コーネリア・ハジアスラーニ=ブーラス

はじめに

学校から引率されてパルテノン神殿を訪れた記録として残る、最も古い写真は1860年のある女学校のものです。それ以来今日まで、学校教育もアクロポリスも大きな変革を遂げて参りました。しかしながら、135年を経た現在、アクロポリスを訪れることが得られる、文化財への情緒的な、あるいは精神的な親近感こそが文化財による教育の基礎になっています。

1 アクロポリス教育課の役割

アクロポリス教育課は広く一般市民に古典古代の文明を理解し、また同時に、比類ない文化財を保存し修復するために現在進行中の科学的事業の理解を深める機会を提供する目的で設立されました。アクロポリス文化財保護委員会の協力を得て、ギリシア文化省先史及び古典古代局第1管理部によって教育課が設立されたのは1987年のことで、アクロポリス研究センターの設立と時を同じくしていました。その設立趣旨は次のような信念に基づいています。

- a) アクロポリス文化財の芸術と歴史に関して身近な知識をもつことや、古典古代建築の神髄について精通することは、今日の市民全員が享受する特権であり、選ばれた一部の専門家だけに限られるものではないこと。
 - b) 文化財の尊重とその保護の大切さの認識への第1歩は教育にあり、しかも早い時期に始められなければならないこと。
- 以上の趣旨が、今日の教育実践の場において、役に立つような変革へと導

くことを本務とする、アクロポリス教育課の役割を規定しています。

教育課としての最初の仕事は、アクロポリスを訪れる生徒にとって、それが有意義なものとなるようにするには、アクロポリスをどのように活用したら最善であるかということを研究する事でした。その結果生まれたのが「アクロポリスの一日」のプログラムでした。

このプログラムで強調されたことは、古典古代建築の建築学的、古典考古学的分析、建築方法、文化財がたどって来た2,500年間にわたる年月の間に被った被害の分析、そしてまた、今日行われている文化財の保存と補修の方針論などです。

アクロポリスを訪れる生徒たちが、実物を見たり、説明を聞くことによって、あるいは実際に触ることによって、上に記された目的が遂げられるよう、考古学の現場としてアクロポリスが整備されました。訓練を受けた学生がボランティアとしてアクロポリスに配置され、おののが自分の分担する仕事をもちました。こうした学生の配置は、神殿の説明から補修作業の説明までが遗漏なく行われるように組織されました。

これらの25箇所に及ぶワークショップは、私たちが計画する大部分のプログラムの基礎となりました。

2 アクロポリス文化財による教育プログラム

今日では、生徒達はアクロポリスやアクロポリス研究センターを訪ねる際に、主題別にまとめられた特別のテーマに従って観て回ります。主題別と言うのはオーバーかも知れませんが、目指すところは、生徒達に古典期の芸術と建築に関する総合された知識を示すことにあります。個々のテーマには、生徒達に配られる説明書が準備されています。そのテーマには次のようなものがあります。

a 古代ギリシア神殿建設の一日体験：

生徒達は、「自分たち自身の」古代神殿を少しづつ建てます。彼らはそれぞれ、古代アテネの市民、建築家、彫刻家、職人などの役割を選び、その役



図19-1 パルテノン神殿のフリーズ製作キット（部分）

割に従って神殿建築の政策決定に立ち会ったり、建設に参加したりします。彼らは神殿の中に祀られる神を選び、本尊の像を作り、神殿の装飾彫刻を創作します。また、神殿をデザインし、模型を作ります。彼らは、建築様式を決定し、その柱頭を製作します。そして、神殿の扉や扉の枠も作ります。

b パルテノン神殿のフリーズ製作一日体験：（図19-1）

生徒達は、パン・アテナイア大祭の行列に疑似参加します。彼らはパルテノン神殿フリーズの縮小された石膏モデルの再構成を試みます。彼らは考古学上、様式上の分析を行い、騎馬行列、戦車競争、あるいは犠牲獣の行進などのモデルを探し、最後にオリンピアの神々を発見します。

c アクロポリス上にアテナ女神を探す一日体験：

生徒達は、アクロポリスの丘を巡って歩き、アテナ女神にかかわる神話や今日失われてしまったアテナ女神像、あるいはアテナ女神が祀られていた建造物など、古代のアテナ女神の崇拜について調べます。アテナ・パルテノス（処女神アテナ）、アテナ・ポリアス（ポリスの守護神アテナ）、アテナ・ニケ（羽のないニケ女神＝アテナ女神）、さらに加えてアテナ・プロマコス（戦争に臨むア

テナ女神) やアテナ・ヒュゲイア(健康の女神アテナ)など、多くのアテナ女神の職能とアトリブート(持物)についての説明とともに、彼らは聖なる丘を探索します。生徒達は、アテナ・パルテノスと、アテナ・プロマコスを描いた黒像式のパン・アテナイア祭のアンフォラをあしらった、しおりをもらいます。アクロポリス博物館では、アトリブートを手掛かりにアテナ女神の像の識別を試みます。聖なる丘の位置関係を知るために、生徒達はアクロポリスの地図をもらい、各種のアテナ女神像のステッカーを、地図上の像が立つ場所に張って行きます。

d アクロポリス上でプルタルコスとパウサニアスのテキストを読む一日：(図19-2)

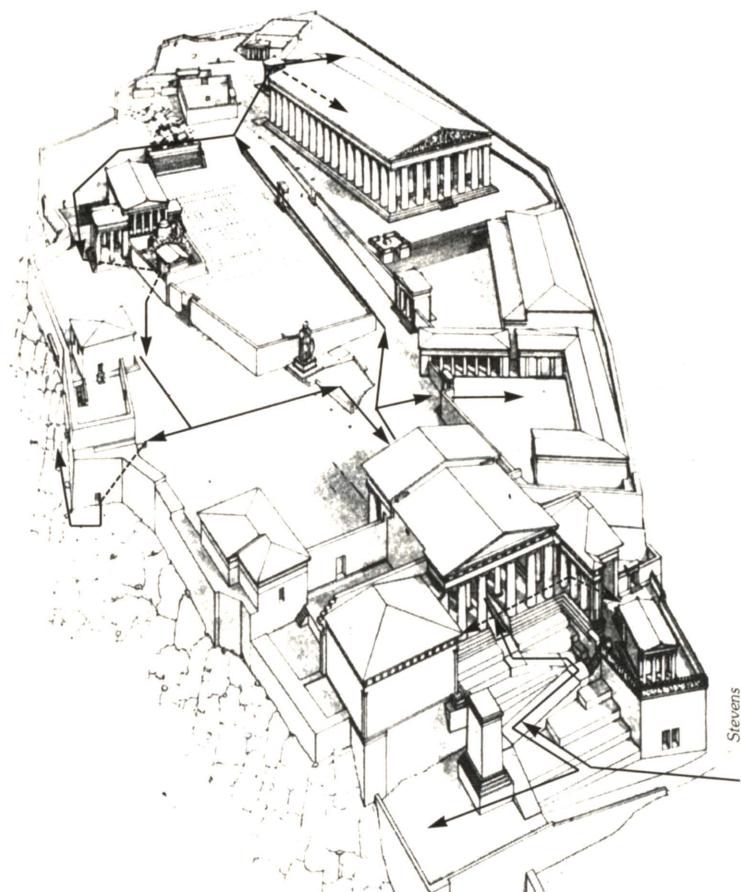


図19-2 パウサニアスのたどった順路を示す図

生徒達は、プルタルコスとパウサニアスをガイドとしてアクロポリスの丘を散策します。現存する古代のテキストに描写される文化財についての最古の様子が、専門家によって製図上に復元され、それを手引きとして子供達は、文化財を理解するために文献を使ったり、あるいは反対に、文献を理解するために文化財を観察する機会が与えられます。彼らは、自分たちが見ているものの中で、何をパウサニアスは見ることができなかつたのか、あるいは、パウサニアスが見たものの中で、何を自分たちは見ることができないのかについて考えます。

上に記したプログラムに、これまで25,000人の生徒達が参加しました。

アクロポリスは、ギリシアの学校の教科において必須の課題であるばかりでなく、世界各地の多くの学校でも教材として使われています。こうした理由から、一日体験コース参加への関心は高く、教育課の見込みをはるかに凌駕するものでした。以上の理由から、教育課の方針は早い時期に修正され、すべての専門分野において先生方を教育することになりました。

今日では、教育課の主な目的は、集中セミナーや、特別に作られた教材を通して、あるいは特殊なシンポジウムを経て、先生方が自分たちの生徒を指導できるようになってもらうことです。

これまで、セミナーに少なくとも1回以上参加した先生の数は、約8,000人で、セミナーや、各種のプログラム、シンポジウムなどに2回以上参加した先生の数は、約800人です。一般的なセミナーに掛かる時間は5時間で、こうしたセミナーは月に1度、あるいは10人以上の先生方の要望があるときに開かれます。

3 アクロポリス文化財による教材

教材は、パンフレット、先生用セット、博物館資料キット、それにパルテノン神殿正面の修復の様子を伝えるビデオテープから構成されています。現在では、無料で学校に配られる2枚のポスターが、教材に加わっています。以上の教材は、古典古代文明コースを教える際に、先生が使用できるように用意されたものです。教材は、先生方がそれぞれの教育計画に基づいて、ま

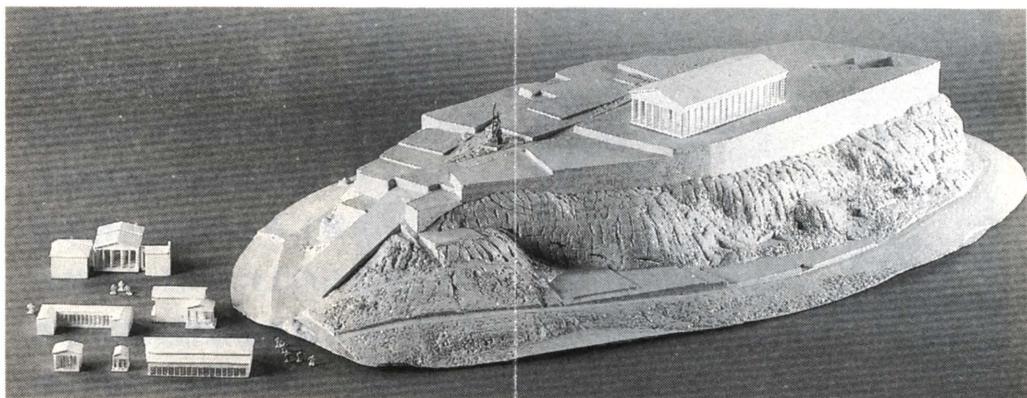


図19-3 アクロポリスの聖域キット

た生徒たちの個々の希望に添って、自主的判断で使用されます。先生方の個性ある使用法によって、教育の活性化が可能となるように、教材にはさまざまな関係資料が含まれています。その使用方法に関しては、セミナーにおいて説明されます。

これまで、私たちが準備して来た中で最も複合的な教材は、博物館資料キットですが、次に、その個々のキットについて簡単に説明をします。

a アクロポリスの聖域：（図19-3）

キットには、紀元前5世紀の状態を復元した、縮尺500分の1のアクロポリス岩盤と数個の建築モデルと、先生用セットが入っています。生徒たちは、神殿モデルをアクロポリスの上に据え付け、それによって、アクロポリスのオリエンテーション、神殿の形や機能、規模の比較、神殿の正確な位置と境界、そしてアクロポリスの上に残る小道などをはっきりと理解することができます。

祭壇、奉納碑、巡礼者や犠牲に捧げられる牛のモデルなどによって、生徒たちはアクロポリスを再現し、古代の敬虔なアテナイ人が自分たちの守護神を崇拜した場所である、魅力ある聖域を想像します。

b 大理石彫刻：（図19-4；カラーポエム5）

キットには、ハンマーほかの道具、道具の使用痕のある大理石塊、防御

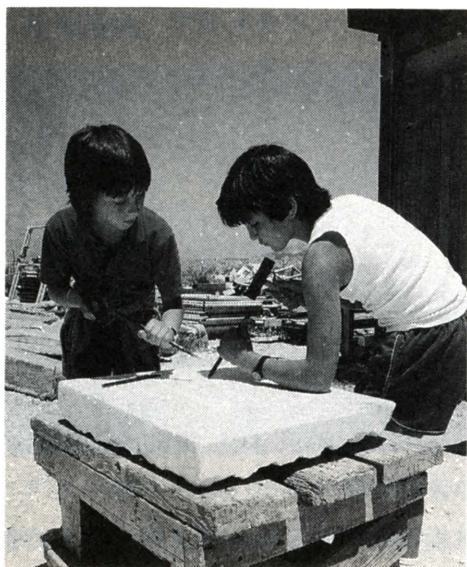


図19-4 アクロポリス上で大理石を彫る生徒たち

用メガネと先生用セットが入っています。生徒たちは、大理石上の使用痕を観察し、与えられた大理石を実際に彫って、技術的体験をします。

こうして、生徒たちは、大理石を彫ることの難しさを把握し、現代や古代の大理石の上にみられる痕跡から、使われた道具の種類を識別します。時には、石鹼を使って実際に彫刻を試みます。

c 古典古代建築様式：（図19-5）

キットには、ゴム印セットが入っ

ています。同じく含まれている、先生用セット（代表的建築の製図、図解や写真など）の説明に従って、生徒たちは、ドーリス式、イオニア式、あるいはコリント式などの建築様式をゴム印を使って構築してみることができます。3種類の異なる様式の柱のモデルが、子供達にとって役に立ちます。アテナ・ニケ神殿の正面の写真をばらばらに切断したジグソー・パズルが特別に作られており、生徒たちは、それを使ってイオニア式建築の構造を理解します。イオ



図19-5 古典古代建築キット

ニア式とレスボス式のキュマティウムの石膏モデルによって、その構造とポリュクロミー（多色装飾）についても学びます。

d パルテノン神殿のフリーズ：（図19-6）

パルテノン神殿のフリーズは、長さが全長160メートル、高さが約1メートルの非常に浅く彫られた浮彫りです。表現されている情景は、偉大なパン・アテナイア大祭の行列です。浮彫りを構成しているのは、行列に参加した360人の姿と、牛を中心に200頭以上の動物です。キットには、西側フリーズの複製ブロック（ジョン・ヘニング制作の縮尺20分の1の復原作品）が入っています。残る部分のフリーズは、プラスチックで覆われた写真によって補われます。

生徒たちは、フリーズの複製ブロックや写真を組み立てることによって、全体のフリーズを構成することができます。原資材である大理石や石工の道具、彩色されたブロックや浮彫りの中の青年頭部の型取り、それに先生用のセットの説明に従って、生徒たちは、フリーズを分析するのに必要な情報が与えられます。

以上に加えて、「古代ギリシアの衣服」と「古代ギリシアの楽器」の二つのキットがあります。

こうしたキットが、どのように機能しているかを説明するために、ギリシア文化省がアクロポリス文化財保護委員会の修復計画の中でも最も重要な提案を受けて、パルテノン神殿のフリーズを、保存目的のために解体することを決定した、1991年1月に制作されたプログラムを取り上げてみましょう。

「パルテノン神殿のフリーズとの1日」のプログラムは、最初にスライド

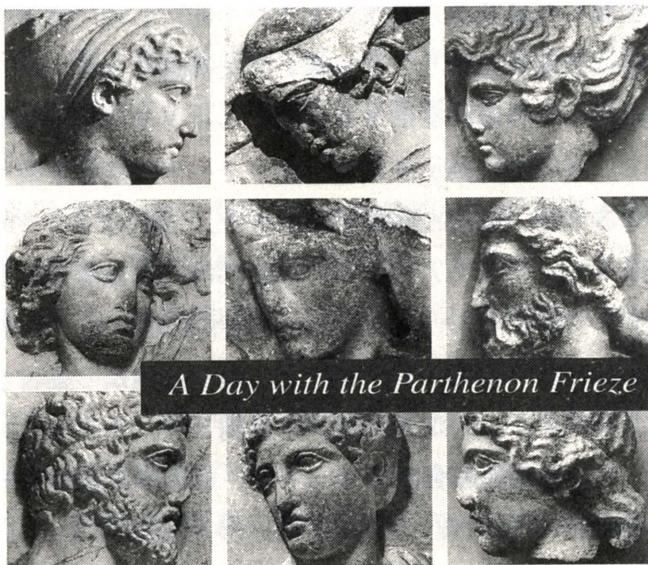


図19-6 パルテノン神殿のフリーズ説明パンフレット表紙

を使った概説から始まります。生徒たちは、大理石彫刻のキットを使って実際に大理石を彫り、その難しさを実感します。「パルテノン神殿のフリーズ」のキットの助けを借りて、縮小したフリーズの型取りを作り、それを彩色して、研究所に展示されているフリーズの複製と較べます。また、ブロックの考古学的、様式的特徴を学びます。「古代ギリシアの衣服」のキットの助けを借りて、パン・アテナイア大祭の行列参加者の異なった種類の衣服を探します。「古代ギリシアの楽器」の助けを借りて、行列の中から楽器を探します。また、彼らは馬、牛、羊など、異なる種類の動物を探します。最後に、生徒たちはオリュンポスの神々を識別して、みずから神を演じます。

これら博物館資料のキットは、1991年に制作されて以来、ギリシア全土の約600の学校に貸し出され、私たちの統計によれば、約50,000人の生徒たちに使われています。

4 アクロポリス文化財による教育活動

アクロポリス教育課による全ての活動は、アクロポリス研究センターで開かれる、「アクロポリスに関する先生と教育プログラムのシンポジウム」に組み込まれており、また活動記録のパンフレットが刊行されています。シンポジウムの参加者は先生たちで、アクロポリス教育課の下に実際に行った、独自のプロジェクトについて報告します。これまで、シンポジウムは4回（1991年、1993年、1994年、1996年）開かれ、80件の報告が発表されており、最初の3年間の報告書が刊行されました。第4回目のシンポジウムの報告書は、現在出版準備が進められています。

学校の中には、あらゆる素材、特にリサイクル素材を使って、アクロポリス文化財の模型を作った例がありましたし、そのほか、製図、絵画、はり絵を制作したり、ゴム印やトレースが使われたりしています。

アクロポリス文化財の大理石柱や瓦などは装飾要素として、あるいは自由なデザイン教育の上で新しい可能性を鼓舞させています。

生徒たちは、古典古代の様式に啓発されて、未来の都市をデザインしたりします。その中で建てられた多くの建物の中には、3階建のガレージがあっ

たり、アンティフィクス（軒端飾り）の形をしたディスコタークが設計されたりしています。生徒の中には、新古典主義建築やビュザンタイン教会に見られる、あるいは、19世紀から20世紀にかけての有名な芸術家の作品に見られる、古典様式について学びました。

未来のデザイナーたちは、「アクロポリス印」のロゴタイプをさまざまにデザインしたり、宝石を作ったり、香水瓶や「Swatch時計」をデザインしたりしました。ほかの生徒は、ギリシア神殿の新しいbingoゲームを作ったりしています。

たくさんの彫刻も作られました。石鹼や焼き石膏、あるいは、どろ紙でケンタウロスとラピタイ族の戦いが再現されました。

また生徒たちは、パルテノン神殿の総監督で芸術家の「フェイディアス」の名前の会社を設立し、玩具の株を発行して友達に売却して、大理石のモデルを作ったりしました。

さまざまな柱や柱頭も、たくさん作られました。紙や箸、焼き石膏、あるいは大きなケーキの上に砂糖で古代神殿が作られたりしました。ブロック玩具のレゴや、人形モデル玩具のプレイモビールで、パン・アテナイア大祭の行列が再現されました。また、開閉可能で、神殿内部に神像が見える古代の扉の装飾に、スパゲッティーが使われたりしました。

ある学校では、先生方が協力して生物学、地質学、数学や化学を含んだ大きなプロジェクトが計画されました。生徒たちは、古代の方法で顔料を作り、また酸性雨の実験をして保存技術の勉強をしました。

モロシーニと1687年のパルテノン神殿の爆破の歴史を現代風にアレンジした、模擬歴史は大変な成功でした。子供たちは羊皮紙の上にインキでモロシーニの日誌を書き、事件の様子の写真を創作し、1687年の新聞を発行して事件の模様を新聞記者風に報告しました。彼らはまた、ビデオ・レポートで9時のニュースを放送して、アクロポリスの監督官や、モロシーニに扮した人や、あるいは架空の損害保険会社の代表ほかの人々をインタビューしていました。

チームワークを組んで、本も作られています。

第4学年の100人の生徒が、パルテノン神殿のフリーズについて本にまと

めました。

第7学年の100人の生徒が、紀元前5世紀のアクロポリスに関して、3冊の本にまとめました。翌年には本当の本として刊行する予定です。

第9学年の170人の生徒が、アクロポリス岩盤の歴史の本を作りました。

第10学年の60人の生徒が、アクロポリス研究センターのガイドブックを作りました。

同じく、第10学年の30人の生徒が、ブラウロンの考古学遺跡と博物館のガイドブックを作りました。

第11学年の26人の生徒が、シロス島のヘルムポリスの新古典主義建築についてまとめました。ヘルムポリスとは、商業と貿易の神で、大阪市立大学のシンボルでもある、ヘルメスの都市と言う意味です。

おわりに

古典古代の最も偉大な到達点であるアテネのアクロポリスは、建築、芸術、文化の原型としてヨーロッパ文明を代表しています。アクロポリスの教育課は、この真に偉大な教育上の潜在価値を活性化する方策を見いだすことが、必要であると感じています。私たちのゴールは、古典古代の輝かしいスペクトルを通して、ヒューマニズムについて学ぶ事ができるように、アクロポリスに関する教育方法と教育プログラムを最高のものとすることです。